

日本における海外中波DXの展望

TDXC Convention2023

中川 弘夫

Contents

- 海外における中波放送の動きについて①
- 海外における中波放送の動きについて②
- 日本における中波放送の動きについて
- AM廃止→FM化の要因
- NHKラジオ一波化後のチャンネルプラン
- アメリカ・カナダでの動き～識者の見解①
- アメリカ・カナダでの動き～識者の見解②
- その他のアメリカにおける気になる動き
- 結論（仮説）
- Discussion

各国におけるラジオ放送の状況

	アナログ放送		デジタル放送
	AM放送	FM放送	
英国	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共放送(BBC)：全国放送1局、ローカル放送26局 ● 商業放送：全国放送2局、ローカル放送50局、コミュニティ放送10局 ● 一部のAM送信局の閉鎖(BBC、全国商業放送)等が決定された 	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共放送(BBC)：全国放送4局、ローカル放送46局 ● 商業放送：全国放送1局、ローカル放送235局、コミュニティ放送245局 	<ul style="list-style-type: none"> ● DAB*¹で放送実施(人口カバー率97.4%(BBC)、91.7%(商業放送 Digital One)) ● 衛星プラットフォーム(Freesat、Sky、Virgin Media)やデジタルTVプラットフォーム(Freeview)でもデジタルラジオ放送を実施
仏国	<ul style="list-style-type: none"> ● ー (財務状況の改善を目的として2015年末に停波) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共放送：7ch(France inter、France bleu*²、France culture、France musique、fip、franceinfo、MOUV) ● 商業放送：1,051ch 	<ul style="list-style-type: none"> ● DAB+*¹で放送実施(人口カバー率21.3%)
独国	<ul style="list-style-type: none"> ● ー (財務状況の改善を目的として2015年末に停波) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共放送：ARD 53ch、DLR 3ch ● 商業放送：州域58ch、地域197ch 	<ul style="list-style-type: none"> ● DAB+*¹で放送実施(人口カバー率98%) ● ARDはFM番組の再送信のほか独自番組15ch、DLRは再送信(3ch)、商業放送は全国10ch、州域・地域200ch強
米国	<ul style="list-style-type: none"> ● 商業放送(4,613局)と公共放送(NPR)が放送 ● FCCがAM放送の活性化政策を検討・実施中 	<ul style="list-style-type: none"> ● 商業放送(6,762局)と公共放送(NPR)、非商業教育放送(4,139局)が放送 	<ul style="list-style-type: none"> ● AM波・FM波でもIBOC方式*³により放送可能 ● 衛星放送(SiriusXM)が175ch以上の放送を実施中
韓国	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共放送：KBS 4ch、MBC 1ch ● 商業放送：宗教放送、米軍放送等 	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共放送：KBS 2ch、EBS 1ch、MBC 2ch、SBS 2ch ● 商業放送：数十局 	<ul style="list-style-type: none"> ● DMB*⁴で放送実施(人口カバー率80%)

*1 欧州におけるデジタルラジオ放送(Digital Audio Broadcasting)規格で、DAB及びDABの改良版であるDAB+がある。

*2 France bleuは44の地域チャンネルからなり、各地域ごとの番組及び全国共通番組を放送。

*3 In-Band On-Channel方式の略で、AM/FM放送を同じ周波数帯で、アナログ放送と同時にデジタル放送を行うことができる方式で、2002年より放送開始されている。

*4 韓国が開発したデジタル放送規格で、地上波及び衛星波を用いて、音声だけでなく、映像やデータも放送できる。

海外における中波放送の動きについて



※「諸外国におけるラジオ放送の動向（2019年5月三菱総合研究所）」より

- ヨーロッパ各国
 - フランス：2015年12月31日停波。FM放送が中心。DABに移行。
 - ドイツ：同上
 - イギリス：BBC、民放共に徐々に停波しているが、未だ残っている
- 北米
 - アメリカ：多くの民放が買収・統合等経営環境の変化に遭遇しつつも、中波放送は健在。
 - カナダ：同上
- オセアニア
 - オーストラリア：中波放送は現時点では健在。

海外における中波放送の動きについて



- 隣国韓国

- MBC（公共放送）：2022年11月8日、ソウルにてAM放送半年間休止後廃止
残るは浦項（ポハン）、全州（チョンジュ）の2局
- SBS（民放）：同日AM放送休止
- CBS（宗教局）：残るはソウル、釜山（プサン）の2局
- KBS（公共放送）：現時点では継続しているが、国外向けを除いて廃止される見通し（時期未定）

日本における中波放送の動きについて

- NHK：「経営計画2021-2023」中で「音声波は2波（AM・FM）への整理・削減に向けて検討」具体的には「2025年度に現在の3波（R1・R2・FM）から2波（AM、FM）へ整理・削減」
- 民放：2019年3月民放連要望が発端：民放AMラジオ47局のうち44局が2028年秋までにFM局となる
- TBSラジオ、ニッポン放送、文化放送の在京3社「早ければ、2028年秋の再免許時でのAM停波実現を目指す」
 - ※例外：HBCラジオ、STVラジオ、秋田放送の3局
- 総務省：世帯カバー率はFMのみで放送を行っているラジオ局と同様の、約90%を満たすように求めている。



AM廃止→FM化の要因

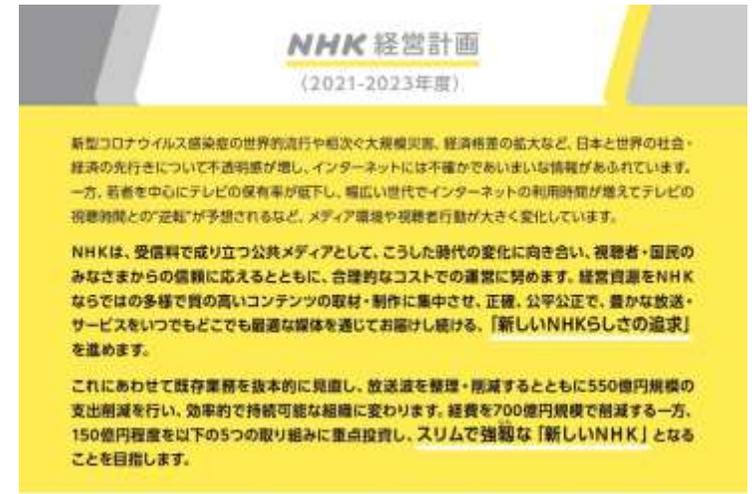


- AMを運営する放送局では、ピーク時の1991年度に2040億円あった営業収入が2017年度には約6割減の797億円に減少。FMもピーク時の2000年から35%減少（※民放連調査）
- 元TBSラジオ社長入江清彦氏談
 - AMの長い歴史とともに老朽化による更新時期が迫っている。高さ100mを超える巨大アンテナは同じ敷地内では放送を続けながらの建て替えは不可能であり、かといって新たな敷地の調達は近隣住民への了承も含め日本の多くのエリアで困難である。となれば、AM放送は現在のアンテナの寿命とともに尽きることになる。
 - 現在全ての民放AM局は都市難聴、外国波混信、災害対策などでFM補完放送をサイマルで実施しているが、この結果、収入は変わらずコストはダブルとなり、これがAM局の経営を大きく圧迫し続けている。
 - 果たして、将来に向けた我々AM社の選択はAMに比べ設備更新も容易で安価なFMへの一本化しか無かった。

NHKラジオ一歩化後のチャンネルプラン

- 未だチャンネルプランは明確でなく、現在策定中と思われる。
- 2023年秋の免許更新申請時に概ね明確になるだろう。
- 一歩化後にどのチャンネルがクリアになるかは見通せない：単純にR2が廃止されR1が残るとは限らない
- それは札幌（747）、秋田（774）、東京（693）、熊本（873）500kW、また大阪（828）300kWの大出力のR2についてはこちらを残す可能性もあるため

（元関係者談）



NHK 経営計画
(2021-2023年度)

新型コロナウイルス感染症の世界的流行や相次ぐ大規模災害、経済格差の拡大など、日本と世界の社会・経済の先行きについて不透明感が増し、インターネットには不確かであいまいな情報があふれています。一方、若者を中心にテレビの保有率が低下し、幅広い世代でインターネットの利用時間が増えてテレビの視聴時間との「定規」が予想されるなど、メディア環境や視聴者行動が大きく変化しています。

NHKは、受信料で成り立つ公共メディアとして、こうした時代の変化に向き合い、視聴者・国民のみならずあらゆる信頼に応えるとともに、合理的なコストでの運営に努めます。経営資源をNHKならではの多種多様な高いコンテンツの取材・制作に集中させ、正確、公平公正で、量かな放送・サービスをいつでもどこでも最適な媒体を通じてお届けし続ける、「新しいNHKらしさの追求」を進めます。

これにあわせて既存業務を抜本的に見直し、放送波を整理・削減するとともに550億円規模の支出削減を行い、効率的で持続可能な組織に変わります。経費を700億円規模で削減する一方、150億円程度を以下の5つの取り組みに重点投資し、スリムで強靱な「新しいNHK」となることを目指します。

- 5つの重点項目
1. 安全・安心を支える 「命と暮らしを守る」報道を強化し、より強靱なネットワークを構築
 2. 新時代へのチャレンジ 最新の技術を活用し、高品質なコンテンツを合理的なコストで提供
 3. おまねく伝える 確かな信頼・サービスを一人ひとりに届け、分断化・多様化した社会をつなぐ
 4. 社会への貢献 地域の信頼獲得強化や日本の放送・メディア業界の発展に貢献
 5. 人事制度改革 組織の機能を最大限発揮するための「人事」改革を推進

NHKがこれまで大切にしてきた公共的価値は、「新しいNHKらしさの追求」にあたってもしっかりと守っていきます。

- NHKが基本と考える公共的価値
- ▼不偏不党、自主自律を堅持、正確で公平公正な情報を発信し、知る権利を充実に、健全な民主主義の発展に貢献
 - ▼一人ひとりの生活の安全、豊かさ、教育、福祉、文化創造に貢献
 - ▼地域社会やメディア業界の維持・発展に貢献
 - ▼日本と国際社会の相互理解に貢献
 - ▼NHKの価値の最大化を図り、視聴者・国民のみならずあらゆる信頼され必要とされる存在となる

受信料が抜本的な減収傾向となることが予測されるなかであっても、NHKと関連団体が一体となって「NHKでしか割り出せないこと」に注力するとともに、効率的な経営を徹底し、受信料の価値の最大化を進めます。全国津々浦々にネットワークを持つ、信頼される「情報の社会的基盤」として、SDGs（国連が定めた持続可能な開発目標）の考え方も踏まえながら、地域や文化を守り、次の世代も安心して豊かに暮らせる日本の未来に貢献してまいります。

アメリカ・カナダでの動き～識者の見解①

Scott Fybush氏（アメリカ）：放送コンサルタント。元WBZ勤務

- 法的な規制はないため、AM放送を継続するかどうかは各局の判断に委ねられている。各局はコストやリスナーがFMに動いたり、地上波から離れてしまうことにより、AM局の価値が下がることを考慮して最終決定する。
- FM移行局はFM単独での放送は許されないので、AMのライセンスも残さねばならない。
- AMバンドは他のバンドに比べ価値が低く、オークションにも掛からない。緩やかに廃れていく運命にある。
- デジタル放送は廃れ行くAM放送に最後の息吹を与えるかもしれない。

アメリカ・カナダでの動き～識者の見解②

Jon Pearkings氏（カナダ）：元放送局勤務。IRCA DX Monitor “Canadian Radio News” エディター

- 鉄筋コンクリート造の建物はAMの電波が通らないので、これがCRTC（日本の総務省に該当）がFMリピーター及びFMへの転換を受け入れさせる要因となった。
- CBCは繰り返しCBUをFMに移行しようとしたが、CRTCは受け入れなかった。これはFMリピーターではサービスを提供出来なくなる地域のため。
- 同じくCBCは1990年代初頭にAM送信機をゼロにするFM化計画を決定したが、CRTCはオンタリオ州の西、ニューファンドランド近辺はAM送信機を残すように指示した。FMでは50kWAM局でカバーするエリアを維持出来ないからです。
- 米国とは異なり、CRTC 規制により、ほとんどの AM 局は FM に切り替えると AM ライセンスを放棄せざるを得なくなる。

その他のアメリカにおける気になる動き



BMW iX

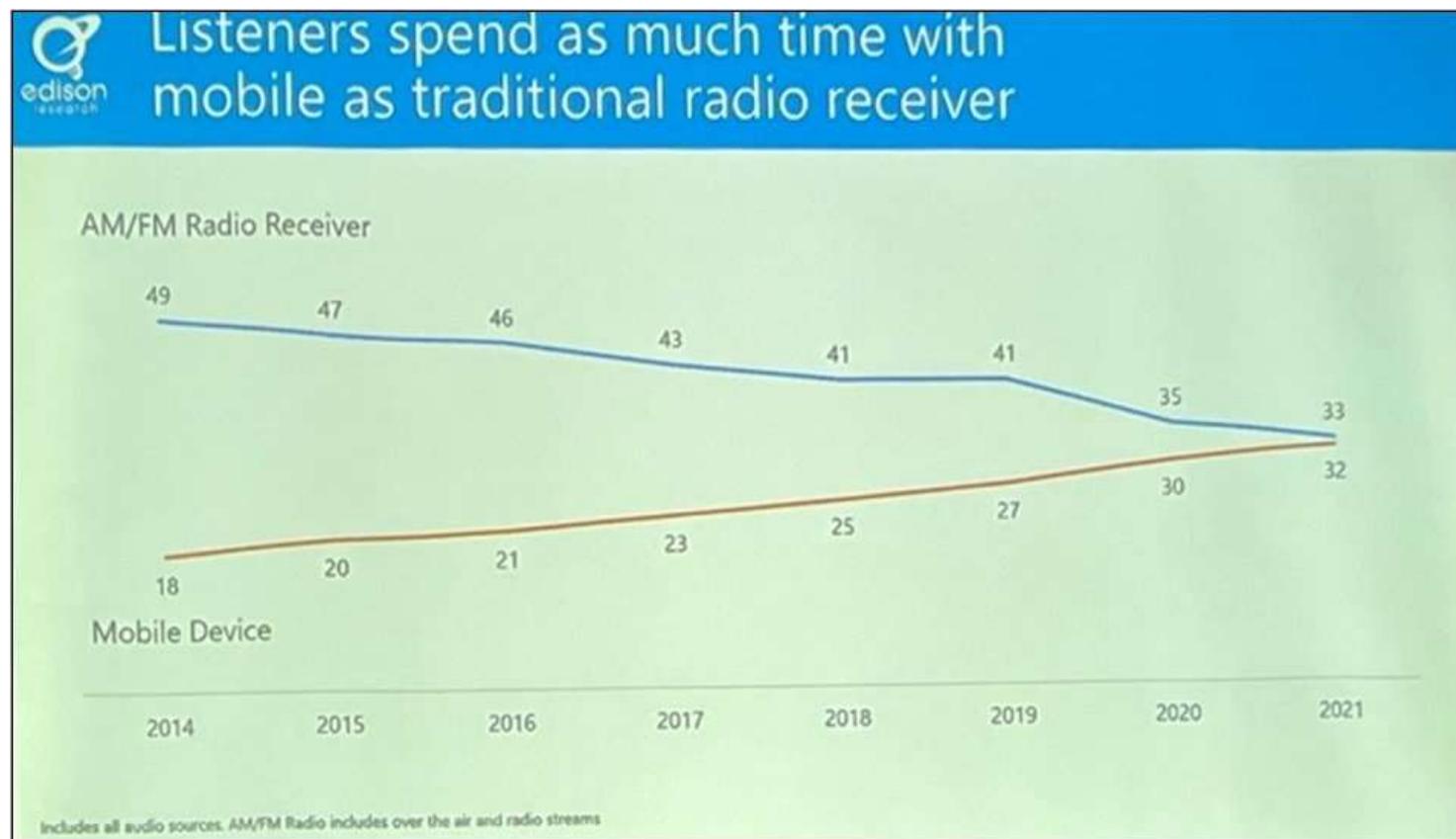
- 米国でカーラジオを撤去の動き
 - 既にアウディ、BMW、ポルシェ、テスラ、ボルボのEVはAMラジオ無しで販売：EVが発生する電磁干渉によるオーディオ品質劣化を理由とする
 - しかし米国系メーカー（フォード、GM、ステランティス）はEVにも引き続き搭載：2021年の調査では89%がラジオは新車に搭載すべきと回答

その他のアメリカにおける気になる動き

- 聴取デバイスの変化

- 2014年：AM/FM受信機使用者が49%に対しスマートフォンは18%
- 2021年：同33%に対し32%でほぼ同数。追い越すのは時間の問題

(米国ラジオ業界動向2022による)



その他のアメリカにおける気になる動き



Oregon州Medford、1440/KMEDはなんと本日AM放送を休止！

結論（仮説）

- アメリカ、カナダ、オーストラリア等国土の広い国のMW-DXは、2028年以降2033年くらいに掛けてチャンスが到来する
 - この地域の中波局は、この期間は無くならないだろう
 - NHK、民放、韓国局中波局の激減によるクリアチャンネルの増大
- 逆に10年後は海外中波DXの趣味はほぼ消滅する
 - AM放送維持コストに民放局が耐えきれず
 - メディア間競争にも敗れ、ラジオ局はポッドキャストに移行し、AMバンドは過疎状態となる。
- 次のピークがラストチャンスになるだろう。なのでそれまでの10年間で大いに楽しもう！

謝辞

- 峯松史明氏
- Nick Hall-Patch氏
- Scott Fybush氏
- Jon Pearkings氏

の貴重なご助言に感謝致します。

また皆様、ご清聴有難うございました！